

誌上行学講習会

高佐日焯上人

このフロイドという人はオーストリアのお医者さんでしたが。人間の心の神秘に気がつき、心の分析を發願したといわれています。現在では心理学の一分野として極めて重要な位置をしめております。この精神分析学に前意識という言葉があります。意識以前の意識というのですが、我々が朝起きて「ああ雨が降っている」とか「いとお天気だ」とか「さて今日は何をしようか」とか、考える前にじっと心の底にひそんでいる心それを前意識と言います。それから無意識の識というのは自分で自覚していかない心のことであります。また超心理学というのが最近非常に発達して来ました。この学問は今や世界あげて超心理学の方向に向かっているようであります。超心理学というのは靈感現象、俗に第六感、虫が知らせるといふような、腹の中に別に虫が住んでいるわけではありませんが、何か心にはとっ感じさせるものがある。そういう神秘的なものを追いかける学問を超心理学というのであります。よく思念伝達という言葉がつかわれませんが、こちらの思いが達せられる。思えば思われる。眼は口程にものを言う。思えば思われる。顔も見ない、性格も知らない。しかるにその人の心を知り、こちらの心を向うに感じさせる。これを思念伝達というのであります。

それらの不思議な現象を探るのも超心理学であります。

「第七課 整識観の構成」

一、整識観は仏教心識学の近代版とも言う可きものであるから、唯識の名称と構成を襲用し経験心理の鏡に映して、何人も納得のゆくように構成するものである。

これは仏教の学問であって、私が僧侶だから仏教の問題を昔から深く研究していません。非常の心の問題を昔から深く研究していません。そのでなく今の時代に消化したもので、つまり古いものは系統を追って来ておりますから、唯識という仏教の学問、その名前、仕組み等を相統して、その上に我々の経験心理、即ち自分で日常實際に経験して承知している心の鏡、それに照らし合わせてみる。そうすれば誰でもはつきり納得出来るわけであります。

「二、唯識の構成」

- 第一識 | 眼識 || がんしき
- 第二識 | 耳識 || にしき
- 第三識 | 鼻識 || びしき
- 第四識 | 舌識 || ぜつしき
- 第五識 | 身識 || しんしき
- 第六識 | 意識 || いしき | 妙觀察智
- 第七識 | 抹那識 || まなしき | 平等性智
- 第八識 | 阿羅耶識 || あらやしき | 大円境智
- 第九識 | 阿摩羅識 || あまらしき | 法界体性智

成所作智

(以下次号)